

(京都府政記者クラブ, 京都市政記者クラブ, 京都経済記者クラブ, 関西プレスクラブ同時配布)

令和2年10月30日

文化庁メディア芸術祭 京都展 「科学者の見つけた詩 ー世界を見つめる目ー」の開催

文化庁では、京都府京都市においてメディアアート、映像、ゲーム、アニメーション、マンガ等のメディア芸術作品を総合的に展示・上映する展覧会「文化庁メディア芸術祭 京都展「科学者の見つけた詩 ー世界を見つめる目ー」」を開催いたしますので、お知らせいたします。

1. 概要

文化庁では、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバル「文化庁メディア芸術祭」を実施しています。

この受賞作品を中心に、優れたメディア芸術作品の鑑賞機会を提供するため、平成14年度から国内の様々な都市において展覧会を開催しています。この度、文化庁メディア芸術祭 京都展として展覧会「科学者の見つけた詩 ー世界を見つめる目ー」を別紙のとおり開催いたします。

2. 会期等

会 期：令和3年1月5日（火）～1月13日（水）（12日（火）休館）

会 場：京都文化博物館 別館ホール、本館 3F フィルムシアター
（京都市中京区三条高倉）

入場料：無料

3. 主催等

主 催：文化庁

共 催：京都府

企画運営：京都文化博物館（公益財団法人 京都文化財団）

4. 問合せ先

文化庁メディア芸術祭 京都展 運営事務局（広報担当）

（株式会社ディレクターズ・ユニブ内）

TEL:075-222-5525

公式サイト：<https://kyoto2020.j-mediaarts.jp/>

<担当> 文化庁地域文化創生本部
暮らしの文化・アートグループ
リーダー 濱田 泰栄
井上 達雄
〒605-8505 京都市東山区東大路通松原上る三丁目
毘沙門町 43-3
電話：075-330-6731（直通） FAX：075-561-3511

報道関係各位

文化庁メディア芸術祭 京都展

「科学者の見つけた詩 -世界を見つめる目-」開催のご案内

文化庁メディア芸術祭はアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。

京都ならではのコンセプトで、これまでの受賞作品を中心に展示・上映する、文化庁メディア芸術祭 京都展「科学者の見つけた詩 -世界を見つめる目-」を令和3年1月5日(火)から開催いたします。

文化庁メディア芸術祭 京都展

「科学者の見つけた詩 -世界を見つめる目-」開催概要

会期： 令和3年1月5日(火)から13日(水) (12日(火)休館)

* フィルムシアターでの作品上映は1月5日(火)から17日(日)

会場： 京都文化博物館 別館ホール、本館3F フィルムシアター
(京都市中京区三条高倉)

入場料： 無料

公式サイト： <https://kyoto2020.j-mediaarts.jp/>

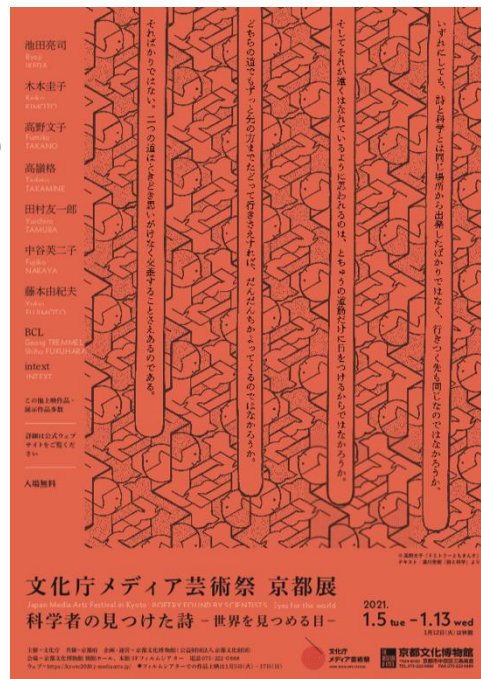
※ 最新情報や展示作品・作家の詳細などは、公式サイトに順次掲載します。

主催：文化庁

共催：京都府

キュレーション：植田憲司(京都文化博物館学芸員)

企画・運営：京都文化博物館(公益財団法人 京都文化財団)



画：高野文子『ドミトリーともきんす』文：湯川秀樹

本件に関するお問い合わせ

文化庁メディア芸術祭京都展 運営事務局(広報担当)

(株式会社ディレクターズ・ユニブ 内)

Email: info@kyoto2020.j-mediaarts.jp

TEL: 075-222-5525

展覧会テーマ

「科学者の見つけた詩 -世界を見つめる目-」

「科学者はときどき、思いがけない詩を発見する」

これは、京都ゆかりの物理学者・湯川秀樹の言葉です。湯川は一方で進歩した科学が高度に専門分化する弊害を見抜き、科学者を「詩を忘れた人」であるとも書いています。一見、遠く離れているように見える「詩（芸術）」と「科学」。対峙するかのような両者に、新しいつながりを探るメディア芸術の作品があります。

たとえば、漫画作品『ドミトリーともきんす』（高野文子作）は、そのひとつです。そこに登場するのは、京都で学んだ朝永振一郎と湯川秀樹、中谷宇吉郎、牧野富太郎たち。本展では、この若き科学者の探求と、彼らの言葉を手がかりにしながら、「世界を見つめる目」としての作品と科学者の言葉が開く地平を提示します。

高野文子『ドミトリーともきんす』

(2014) 中央公論新社

© Fumiko Takano



不思議な学生寮「ともきんす」に暮らす“科学する人たち” 朝永振一郎、牧野富太郎、中谷宇吉郎、湯川秀樹。彼らが遺した文章と一組の母娘の出会いを描く漫画作品。

主な展示作品 (予定)

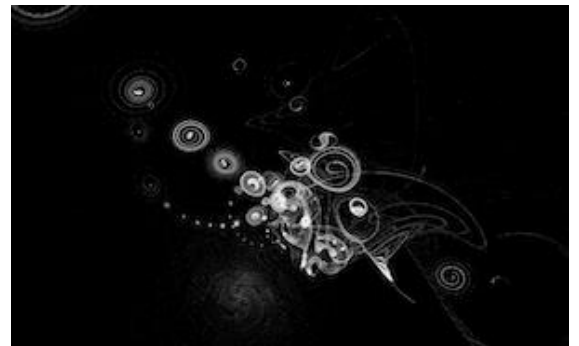
第10回文化庁メディア芸術祭 アート部門 大賞

「Imaginary・Numbers 2006」

インスタレーション

木本圭子

* 木本圭子の他作品も展示予定



Imaginary・Numbers 2006, 2006 © Keiko Kimoto

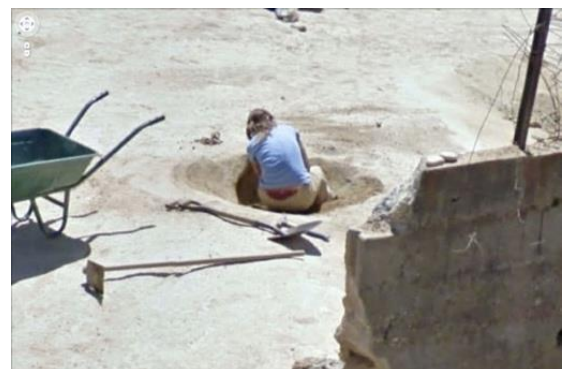
第14回文化庁メディア芸術祭 アート部門 優秀賞

「NIGHT LESS」

映像作品

田村友一郎

* 田村友一郎の他作品 (新作) も展示予定



NIGHT LESS, 2009 © Yuichiro Tamura
Image from the Google Street View © Google

第13回文化庁メディア芸術祭 アート部門

審査委員会推薦作品

「Common Flowers - Flower Commons」

ハイブリッドアート

BCL (ゲオアグ・トレメル+福原志保)



Common Flowers - Flower Commons, 2009

© BCL / Georg Tremmel + Shiho Fukuhara

第23回文化庁メディア芸術祭 マンガ部門 大賞

『ロボ・サピエンス前史』

島田虎之介



© 島田虎之介/講談社

主な上映作品 (予定)

第16回文化庁メディア芸術祭 アート部門 優秀賞

『BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW』

ウェブ (本展では上映形式)

SOL CHORD (前田真二郎/岡澤理奈)



© SOL CHORD

第21回文化庁メディア芸術祭 アニメーション部門

審査委員会推薦作品

『夜は短し歩けよ乙女』

劇場アニメーション

湯浅政明



© Morimi Tomihiko, KADOKAWA / NAKAME no kai

第15回文化庁メディア芸術祭 エンターテインメント部門 優秀賞

グループ魂「べろべろ」

ミュージックビデオ

田中秀幸



© Sony Music Labels Inc.

【その他の出品予定作家】

(展示) 池田亮司、高野文子、高嶺格、中谷芙二子、藤本由紀夫、intext

(上映) ジュリオ・ポアト (『DUMB TYPE 高谷史郎-自然とテクノロジーのはざま』)、ダムタイプ、石田祐康 (『ペンギン・ハイウェイ』)、榎原澄人、ぬQ、ひらのりょう、山田尚子 (『たまこラブストーリー』)

【会場案内】

京都文化博物館 別館ホール、本館 3F フィルムシアター

所在地：京都市中京区三条高倉

京都文化博物館は、京都の歴史と文化をわかりやすく紹介する総合的な文化施設として 1988 年に開館しました。

本館では、京都ゆかりの優品を折々の企画にあわせて紹介し、フィルムシアターでは京都府所蔵の名作映画を上映しています。また、レンガ造りの別館は旧日本銀行京都支店として利用されていた建物で、国の重要文化財の指定を受けています。

かつて行員達が働いていた営業室を現在はホールとして使用しており、今回の展示のメイン会場となります。

別館ホール：インスタレーションなどのテーマ展示

本館 3F フィルムシアター：長編および短編の映像作品の上映



【文化庁メディア芸術祭】

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。平成9年度(1997年)の開催以来、高い芸術性と創造性をもつ優れたメディア芸術作品を顕彰するとともに、受賞作品の展示・上映や、シンポジウム等の関連イベントを実施する受賞作品展を開催しています。



※写真は第23回文化庁メディア芸術祭
受賞作品展の様子